

第 123 回  
信州整形外科懇談会

日本整形外科学会認定教育研修講演

(日整会 専門医 1 単位)

講師：千葉大学大学院医学研究院 整形外科学

教授 大鳥 精司 先生

演題：慢性腰痛疾患の診断と治療。今後の展望も含めて

日 時：2019 年 2 月 2 日 (土) 12:20～

会 場：信州大学医学部 旭研究棟 9 階

参加費：3,000 円 (初期研修医；1,000 円)

抄録掲載料：1,000 円 (発表者)

単位申請料：1,000 円 (日整会教育研修単位取得希望の場合、当日受付にて申し受けます)

発表 表：1 例報告 1 題 4 分、その他 5 分、討論 2 分、パソコン単写

抄 録：信州医学会雑誌に掲載されます。

\* 投稿規定に従い当日に、発表演題とともに USB フラッシュメモリにて  
ご持参下さい。

当番幹事 信州大学医学部整形外科

加 藤 博 之

信州大学整形外科懇談会事務局

TEL 0263-37-2659 (直通) FAX 0263-35-8844

共 催 信州整形外科懇談会 / 科研製薬株式会社

## 発表形式について

1. Windows 版、Powerpoint ファイルとして USB フラッシュメモリで持参してください。
2. ファイル名は“演題番号氏名”としてください。(例 “4 吉田和薫 ppt.”)
3. コンピュータ本体の持ち込みはできません。
4. トラブルに備えて必ずバックアップを持参してください。

## 抄録投稿規定

- ①Windows 版、Word ファイルとして USB フラッシュメモリで、必ず懇談会当日に持参してください。
- ②形式は例を参照して作成してください。
- ③本文は 400 字以内 (25 字×16 行) としてください。
- ④演題名、所属、演者名、本文の誤字脱字を入念にチェックして提出してください。

演題番号	演題名
施設名 演者名 : (演者に○をつける)	
本文	

### 投稿例

4. 第3楔状骨に発生した骨巨細胞腫の1例  
信州大学整形外科  
○吉田和薫, 吉村康夫, 磯部研一  
新井秀希, 青木 薫, 加藤博之

症例は30歳男性. 階段昇降後に右足部痛を自覚. 他院で右第3楔状骨に骨透亮像, 病的骨折を指摘され当科紹介となった. 単純X線で第3楔状骨に骨透亮像を認め, CTで骨皮質の菲薄化, 膨隆と一部途絶を認めた. . . . .

## 製品紹介 (12:20~12:30)

関節機能改善剤 アルツディスポ関節注 25mg

科研製薬株式会社

## 上肢 (12:30~13:15)

座長：岩川 絃子

### 1. ※診断と治療に難渋した結核性肩関節炎の1例

長野県立信州医療センター 整形外科

○臼田 悠、根本和明、渡邊憲弥、三井勝博

骨関節結核は稀な疾患である。今回、肩関節の骨溶解が急速に進行し、肩関節液の塗抹検査、PCR 法陰性であったが、抗酸菌培養陽性となり、結核性肩関節炎と診断した1例を経験したので報告する。

### 2. ※上腕骨小結節単独骨折に対してセルフコンプレッションスクリュー固定を施行した1例

長野県立信州医療センター 整形外科

○根本和明、臼田 悠、渡邊憲弥、三井勝博

症例は26歳男性。スノーボードで左上腕骨小結節単独骨折を受傷した。上腕骨小結節単独骨折は稀であるが、セルフコンプレッションスクリューで良好な結果が得られたため報告する。

### 3. ※上腕三頭筋皮下断裂の1例

岡谷市民病院 整形外科

○上甲巖雄、鴨居史樹、田中 学、春日和夫、内山茂晴

72歳女性。転倒し右肘を打撲し、右肘痛を愁訴に受診。右肘全体の腫脹と皮下出血認め、肘関節の自動伸展ができなかった。画像検査にて上腕三頭筋停止部皮下断裂を認めた。再建術を行いADLは元の状態に改善した。

### 4. 母指CM関節症 stage IV に対する関節固定腱球移植併用術の成績

信州大学 整形外科<sup>1)</sup>

岡谷市民病院 整形外科<sup>2)</sup>

○白山輝樹<sup>1)</sup>、林 正徳<sup>1)</sup>、岩川絃子<sup>1)</sup>、橋本 瞬<sup>1)</sup>、鴨居史樹<sup>2)</sup>、  
内山茂晴<sup>2)</sup>、加藤博之<sup>1)</sup>

STT関節症を伴う母指CM関節症(Eaton分類 stage IV)に対する治療法は意見の一致がない。演者らは同例に対し、母指CM関節固定とSTT関節への腱球移植の併用術を行っている。5例(7手)の術後成績を報告する。

## 5. \*Free medial sural flap で手癒痕拘縮解除した1例

長野赤十字病院 形成外科

○中嶋優太、岩澤幹直、三島吉登、重吉佑亮

手背から前腕部の熱傷癒痕拘縮治療に遊離皮弁は効果的である。肩甲皮弁、外側大腿皮弁などより薄く、同時採取しやすい点から Free medial sural flap を利用したので報告する。

## 6. \*異常走行する筋により鏡視下から直視下手根管開放術に術式変更した1例

北アルプス医療センターあづみ病院 整形外科

○新津文和、中村恒一、磯部文洋、松葉友幸、狩野修治、向山啓二郎、石垣範雄、太田浩史、畑 幸彦

64歳男性、手のしびれを主訴に受診、手根管症候群に対して鏡視下手根管開放術を行うも、術中手根管内を異常走行する筋を認め、直視下手根管開放術に変更した。まれな異常走行筋に関して、文献的考察を加え報告する。

## 小児・腫瘍・その他 (13:15~14:15)

座長：鈴木 周一郎

## 7. 化膿性恥骨結合炎の2例

諏訪赤十字病院 整形外科

○重信圭佑、小山勇介、小松雅俊、青木哲宏、中川浩之、小林千益

稀な化膿性恥骨結合炎の2例を経験した。ともに運動部所属の10歳代男性。急性発症の恥骨結合部痛にて受診。炎症反応高値、画像検査で恥骨結合部の骨融解を認めた。早期に診断し抗生剤の投与により改善を認めた。

## 8. 乳児期の臼蓋形成不全を『推奨項目』でスクリーニングできるか？

長野県立こども病院 整形外科

○松原光宏、酒井典子

乳児健診で『推奨項目』を用い臼蓋形成不全がスクリーニングできるか検討した。乳児健診で全例X線撮影を行っている飯田市で『推奨項目』を併用し $\alpha$ 角 $30^\circ$ 以上を臼蓋形成不全とし『推奨項目』の精度を検討した。

## 9. DDH 治療後 再脱臼・側方化の予測因子

長野県立こども病院 整形外科

○泉水康洋、松原光宏、酒井典子

DDH (脱臼) 治療後の再脱臼・側方化を予測する因子として $\angle a$ 値を検討した。 $\angle a$ 値とは牽引治療開始3日後の骨頭位置の下降距離とした。治療後の再脱臼・側方化を認めた症例では $\angle a$ 値が有意に高値であった。

## 10. 大腿骨転移に対し内固定は有効か？

信州大学 整形外科<sup>1)</sup>

信州上田医療センター 整形外科<sup>2)</sup>

○阿部雪穂<sup>1)</sup>、田中厚誌<sup>1)</sup>、鈴木周一郎<sup>1)</sup>、鬼頭宗久<sup>1)</sup>、岡本正則<sup>1)</sup>、  
青木 薫<sup>1)</sup>、加藤博之<sup>1)</sup>、高沢 彰<sup>2)</sup>、吉村康夫<sup>2)</sup>

我々は大腿骨転移に対し、1年以上の予後が期待できない症例には内固定を選択してきた。本研究では内固定で治療した19例の術後成績を検証し、内固定の有効性と注意点について考察した。

## 11. 肺癌の骨転移 10 例の検討

信州上田医療センター 整形外科

○小松幸子、高沢 彰、赤羽 努、吉村康夫

骨転移は様々な癌で起こるが肺癌に多い。骨折や神経症状を生じた場合にはADLに大きく影響を与える。当院にて紹介となった肺癌骨転移の患者10例について、骨転移の部位、罹病期間などについて検討したので報告する。

## 12. 脆弱性骨折 10 症例の検討

長野市民病院 整形外科<sup>1)</sup>

長野市民病院 内分泌内科<sup>2)</sup>

長野市民病院 臨床研修センター<sup>3)</sup>

○藤澤多佳子<sup>1)</sup>、熊木大輝<sup>1)</sup>、日野雅仁<sup>1)</sup>、藍葉宗一郎<sup>1)</sup>、新井秀希<sup>1)</sup>、  
中村 功<sup>1)</sup>、松田 智<sup>1)</sup>、佐野麻美<sup>2)</sup>、西井 裕<sup>2)</sup>、谷川悠介<sup>3)</sup>

誘因なく又は軽微な外力で発症したいわゆる脆弱性骨折10例を検討した。4例に骨軟化症、8例にビタミンD欠乏、1例にKlinefelter症候群が、骨折を機に判明した。250HDが保険適用となり、これまで見逃されていたビタミンD欠乏を検出することが可能となった。

## 13. プロサッカー選手における傷害

丸の内病院 整形外科<sup>1)</sup>

南長野医療センター篠ノ井総合病院 整形外科<sup>2)</sup>

了徳寺大学 健康科学部 医学教育センター<sup>3)</sup>

○百瀬能成<sup>1)</sup>、縄田昌司<sup>1)</sup>、森岡 進<sup>1)</sup>、前田 隆<sup>1)</sup>、大柴弘行<sup>1)</sup>、  
百瀬敏光<sup>1)</sup>、中土幸男<sup>1)</sup>、野村博紀<sup>2)</sup>、岡部高弘<sup>3)</sup>

プロサッカークラブの7年間の傷害について調査した。1週間以上の離脱を要した傷害数は252件、平均33.6件/年であった。筋損傷が96件(38.1%)と最多で、21件(8.3%)で手術加療を要した。

## 下 肢 1 (14 : 15～15 : 15)

座長：下平 浩揮

### 14. 仰臥位前方筋間進入法による全人工股関節置換術では若年齢でステム前捻が増加する

長野県立信州医療センター 整形外科

○渡邊憲弥、臼田 悠、根本和明、三井勝博

THA を Direct anterior approach (DAA) で施行した 140 例の年齢、性別、BMI、原疾患、cortical thickness index および canal flare index などを調査した。Combined anteversion の増加因子を回帰分析した結果、関連因子は年齢であった。同様にステム前捻角と前方開角を解析し前者で年齢が因子となった。

### 15. Direct anterior approach による THA BHA ～手術手技の工夫～

長野県立信州医療センター 整形外科

○三井勝博、渡邊憲弥、臼田 悠、根本和明

Direct anterior approach (DAA) は大腿骨操作が難しく助手の負担が多くなってしまうことが欠点である。我々は特殊な器具を用いず直達力による大腿骨挙上を行い透視併用下に手術を行っている。その手術方法、成績、今後の課題につき報告する。

### 16. ＊術後 23 年 (90 歳) で破損した人工骨頭の 1 例

飯田市立病院 整形外科

○宮澤 駿、野村隆洋、福澤拓馬、畑中大介、伊坪敏郎、伊東秀博

左股関節痛と歩行困難の 90 歳女性。67 歳で脆弱性左大腿骨頸部骨折に対して人工骨頭置換術が施行されたが、術後 23 年で Outer Head が破損した。再手術として Outer Head の入れ換えを行い、1 本杖歩行が可能となった。

### 17. ＊著明な骨欠損を伴ったソケットのゆるみに対し 4 回目の再置換術を行った 1 例

諏訪赤十字病院 整形外科

○小山勇介、小林千益、重信圭佑、小松雅俊、青木哲宏、中川浩之

症例は 81 歳女性。右股関節症に対して 24 年前に人工股関節全置換術施行。その後、同股関節での骨欠損を伴うソケットのゆるみを繰り返し、計 4 回の人工股関節再置換術を要し治療に難渋した 1 例を報告する。

### 18. 初回人工股関節置換術中に明らかとなったステム周囲骨折の治療経験と危険因子の検討

南長野医療センター篠ノ井総合病院 整形外科

○野村博紀、丸山正昭、外立裕之、大島諒士

初回人工股関節置換術中に起こるステム周囲骨折は完全な予測は不可能で accidental に起こることも多く、その場で用意できるデバイスで何とか対処しなければならない。今回、その対処方法を検討し危険因子を推測した。

## 19. 前十字靭帯再建術における骨孔作成方法の検討

丸の内病院 整形外科

○百瀬能成、縄田昌司、前田 隆、森岡 進、大柴弘行、中土幸男

解剖学的二重束再建術で経ポータル法を用いて骨孔を作成した 91 例について、術後単純 CT 像により大腿骨および脛骨の骨孔位置について評価し、過去に経脛骨法で骨孔作成した再建術と比較したので報告する。

## 20. スポーツ選手に対する半月板縫合術の成績

丸の内病院 整形外科

○百瀬能成、縄田昌司、森岡 進、前田 隆、大柴弘行、中土幸男

Tegner activity level scale 8 以上のハイレベルスポーツ選手に対して施行した半月板縫合術の術後成績について、全例とも再発なく術前競技へ復帰し得たので報告する。

————— <休憩 15 分> —————

## 下 肢 2 (15 : 30~16 : 35)

座長：小山 傑

### 21. ＊著明な疼痛と可動域制限を呈した滑膜ひだ障害の 1 例

信州大学 整形外科

○畑 宏樹、天正恵治、下平浩揮、小山 傑、岩浅智哉、堀内博志、  
齋藤直人、加藤博之

12 歳女子。持続する痛みと著明な可動域制限を呈した。関節鏡施行したが、明らかな異常はなく滑膜ひだのみ切除した。術後、疼痛と可動域制限が改善した。

### 22. 外反型変形性膝関節症に対する

medial closed Distal Femoral Osteotomy (DFO) の膝蓋大腿関節への影響

兵庫医科大学 整形外科

○赤岡裕介、中山 寛、神頭 諒、吉矢晋一

外反型変形性膝関節症に対して medial closed DFO を行い、術後最低 2 年以上が経過した 21 膝の膝蓋骨位置の変化について評価した。Patellar height や patellofemoral joint congruity に有意な変化を認めず、膝蓋大腿関節に悪影響を与えないことが示唆された。

### 23. 脛骨骨幹部骨折に対する CT 撮影

帝京大学医学部附属病院 外傷センター

○鈴木 卓、中山雄平、本田哲史、宮本英明、松井健太郎、石井桂輔、  
黒住健人、渡部欣忍

当施設で髓内釘固定した脛骨骨幹部骨折の受傷時 CT 横断像 99 名 (101 肢) を後ろ向きに検討した。足関節周囲の損傷を認めたのは 62 肢あった。Gustilo I、II の軽度開放骨折 38 肢のうち 26 肢で骨折中心から 5cm 以上離れた遠隔部位にも空気像が到達していた。

## 24. 再手術を要した足関節固定術（フィン付き髓内釘）の2例

飯田市立病院 整形外科

○野村隆洋、畑中大介、宮澤 駿、福澤拓馬、伊坪敏郎、伊東秀博

フィン付き髓内釘を35関節行い2例に再手術を要した。1例は髓内釘の折損、1例は感染であった。2例とも再手術後に良好に骨癒合した。その予防と治療について述べる。本髓内釘は有用であり現在でも使用している。

## 25. ＊小児に生じた腓骨筋癒性扁平足の1例

聖マリアンナ医科大学 整形外科学講座<sup>1)</sup>

聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 整形外科<sup>2)</sup>

○軽辺朋子<sup>1)</sup>、平野貴章<sup>1)</sup>、秋山 唯<sup>1)</sup>、三井寛之<sup>1)</sup>、遠藤 渉<sup>1)</sup>、  
原口直樹<sup>2)</sup>、仁木久照<sup>1)</sup>

小児足関節捻挫は日常臨床でよく経験する外傷である。足根骨癒合を伴う捻挫の症例では腓骨筋腱の癒性を生じ難治化する例がある。今回足根骨癒合に距骨の facet 構造が併存し、難治化した1例を経験したので報告する。

## 26. 骨切除を加えた DLMO 法の矯正角度に関する X 線学的検討 ー重度外反母趾への適用ー

長野県立木曾病院 整形外科

○中曾根潤、樋口祥平

重度外反母趾に対して DLMO 法を施行する際に 2-3mm 程度の骨切除を追加することで術中の矯正が容易になり矯正角度の獲得と矯正損失の軽減にも有用と考えている。通常の DLMO 法と X 線学的に比較し検証した。

## 27. ＊両足の複数趾の中足骨短縮症に対して仮骨延長術を行った1例

信州大学 整形外科

○中西真也、岩川絃子、橋本 瞬、林 正徳、加藤博之

14歳の男子で、右第1、3、4趾と左第1、4趾の中足骨短縮症と右第2中足骨の疲労骨折があった。右足と左足の短趾に対し仮骨延長術を行った。可動域制限、癒痕などの合併症は無く、疲労骨折は治癒しスポーツ復帰した。

## 28. 青年期の二分脊椎による麻痺性内反足の治療

長野県立こども病院 整形外科

○酒井典子、松原光宏、中西真也

青年期に足部変形が残存した4例に対し、矯正手術を行ったので短期成績を報告する。幼少期の治療の有無により、治療の難易度が明らかに異なった。これらの症例の比較検討を行う。



## 脊 椎 (16 : 35～17 : 10)

座長：宗像 諒

### 29. 頤椎後縦靱帯骨化症に対する椎弓形成術後の骨化進展

国保依田窪病院 整形外科

○三村哲彦、堤本高宏、由井睦樹、林 幸治、古作英実、三澤弘道

頤椎後縦靱帯骨化症に対して椎弓形成術を行い、術後 4.5 年以上の経過観察を行った症例に対して、頤椎後縦靱帯骨化の進展を検討した。

### 30. 胸椎黄色靱帯骨化症の治療成績

飯田市立病院 整形外科

○福澤拓馬、伊東秀博、宮澤 駿、畑中 大介、伊坪敏郎、野村隆洋

胸椎は胸郭に囲まれており脊髄障害は生じにくいとされている。その中で胸椎黄色靱帯骨化症は、胸髄症発症原因の 60%を占めるとされている。当科で経験した胸椎黄色靱帯骨化症の手術成績と特徴を検討した。

### 31. ＊思春期特発性側弯症手術後に創離開で診断された手術部位感染の 1 例

信州大学 整形外科<sup>1)</sup>

信州大学 形成外科<sup>2)</sup>

○樽田大輝<sup>1)</sup>、高橋 淳<sup>1)</sup>、大場悠己<sup>1)</sup>、倉石修吾<sup>1)</sup>、池上章太<sup>1)</sup>、  
上原将志<sup>1)</sup>、滝沢 崇<sup>1)</sup>、宗像 諒<sup>1)</sup>、畠中輝枝<sup>1)</sup>、畑 宏樹<sup>1)</sup>、  
加藤博之<sup>1)</sup>、春日 航<sup>2)</sup>

13 歳、女子。思春期特発性側弯症に対し T11-L3 の後方矯正固定術を行った。術後経過に問題無く術後 10 日に退院したが、3 日後に創離開し再入院となった。創部浸出液から MRSE が検出され、洗浄デブリドマン後に VAC 療法を開始した。

### 32. 側方椎体間固定術における合併症

信州大学 整形外科<sup>1)</sup>

諏訪赤十字病院 整形外科<sup>2)</sup>

○前角悠介<sup>1)</sup>、倉石修吾<sup>1)</sup>、高橋 淳<sup>1)</sup>、池上章太<sup>1)</sup>、上原将志<sup>1)</sup>、大場悠己<sup>1)</sup>、  
滝沢 崇<sup>1)</sup>、宗像 諒<sup>1)</sup>、畠中輝枝<sup>1)</sup>、小岩 海<sup>1)</sup>、中川浩之<sup>2)</sup>、加藤博之<sup>1)</sup>

XLIF や OLIF などの側方椎体間固定術 (LIF) は低侵襲脊椎固定術として普及している。LIF による合併症を調査し、合併症の予防と対策を検討した。

### 33. 腰椎変性すべり症に対する 1 椎間内視鏡下椎弓切除術と棘突起縦割下椎弓切除術の比較検討

国保依田窪病院 整形外科

○林 幸治、堤本高宏、由井睦樹、三村哲彦、古作英実、三澤弘道

1 椎間の腰椎変性すべり症例に対して、内視鏡下椎弓切除術施行症例と棘突起縦割下椎弓切除術施行症例について比較検討したので報告する。

————— <総会、休憩 20 分> —————

# 教育研修講演

(17:30～18:30)

講師： 大鳥 精司 先生

千葉大学大学院医学研究院 整形外科学 教授

演題： 慢性腰痛疾患の診断と治療. 今後の展望も含めて

座長 加藤 博之 先生

信州大学医学部運動機能学教室 教授

認定単位： 日本整形外科学会専門医資格継続 1 単位

(7. 脊椎・脊髄疾患、13. リハビリテーション (理学療法, 義肢装具を含む))

または認定脊椎脊髄病医単位(SS))

※単位取得希望の方は 1,000 円を当日受付にて申し受けます。

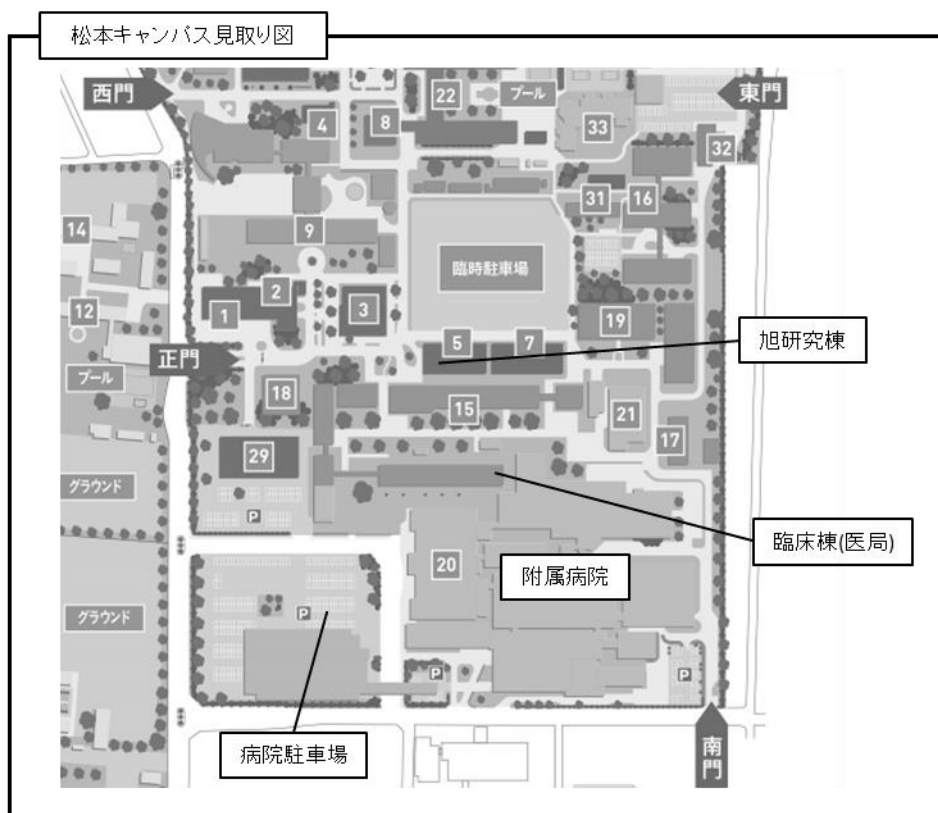
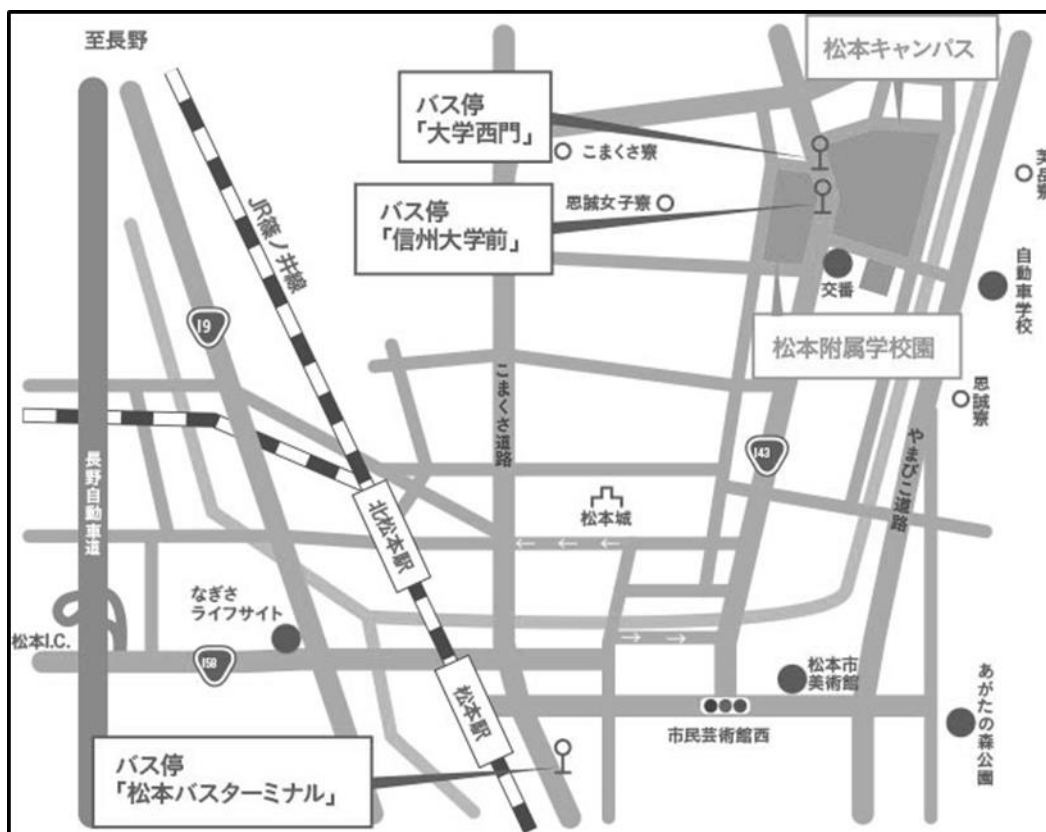
※教育研修講演の単位取得申請は IC 会員カードによるデジタル登録で行います。

単位取得希望の方は IC 会員カードを必ずお持ちください。

今回、インフルエンザ流行中であり、全員の懇親会は予定して  
おりません。



## 信州大学医学部のご案内



※お車でお越しの方へ

病院外来の駐車場に駐車をお願いいたします。

受付にて割引券(自己負担 200 円となります)をお渡しさせていただきます。